

市と多様な主体との協働に関する実績・評価 追加調査票

記入日	令和 年 月 日		
記入者	団体・所属名		
	担当者		
	連絡先		

1 事業の概要（基本情報）

事業名称	
協働の形態	
事業内容	
事業期間	

2 事業の目標設定と成果（事業についての評価・点検）

事業の目的・目標	
----------	--

協働による効果	（協働による効果）下記の5項目から1つ選択してください。			
	①大変良かった ②良かった ③どちらとも言えない ④あまり良くなかった ⑤良くなかった			
	←プルダウンから選択			
	（要因の検証）上記を選択した理由として、協働をしたことでプラス要因になったものには「○」、マイナス要因になったものには「×」、どちらでもないものには「-」を記入してください。			
	①資金	②人材・人手	③場所・資材	④期間・スケジュール
	⑤ノウハウ	⑥情報共有	⑦市民ニーズ	
	単独実施では難しかったり、できなかつたりしたことを以下に記入してください。			

3 協働したことについての経緯・評価

	協働のきっかけや理由について記入してください。
(1) 協働の経緯や決め手	

(2) 相互評価

令和2年度事業に対する自己評価、協働相手に対する評価として、「市に対する評価」「市民活動団体等に対する評価」の両方に記入してください。

※評価基準については、「5：十分」「4：ほぼ十分」「3：普通」「2：やや不十分」「1：不十分」としてください。

評価項目	市に対する評価 (1~5)	市民活動団体等に対する評価 (1~5)
①公正性及び透明性が確保された状況で事業を実施することができたか		
②必要以上に干渉せず、お互いの自主性・主体性を尊重して事業を進めることができたか		
③お互いの特性を理解し、明確な役割分担に基づいて事業を進めることができたか		
④定期的に情報・意見交換を行ったか		
⑤協働により、単独よりも事業効果があったか		
⑥事業実施にあたり、必要に応じて行政側は担当部署を超えた横断的な連携を図ったか		
⑦協働相手の特性を理解し、適切な配慮がなされたか		
⑧業務を請け負う上での守秘義務を果たしたか		
⑨公費を使うことの自覚と責任を持って業務に当たったか ※該当がある場合のみ回答		

(3) 相互評価結果における差異について

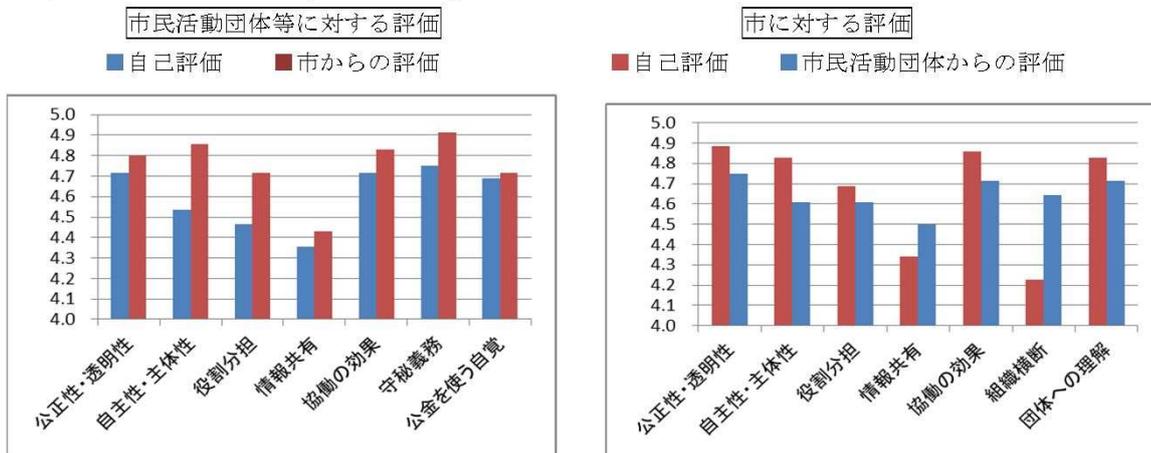
前回の調査（令和元年度事業の評価）における上記（2）の相互評価の結果をとりまとめたものが以下のグラフになります。（対象：共催事業全35件）

多くの項目において、市側が行った評価のほうが、市民活動団体側が行った評価よりも、「自己評価」及び「相手方に対する評価」のいずれについても点数が高い傾向であることが分かりました。

このような傾向が生じた理由として考えられることや思い当たることをご記入ください。

（参考）前回調査時の相互評価結果（5点満点）※平均点

【対象：令和元年度の共催事業 35件】



(3) 今後の市と市民活動団体との協働について	※下記の5項目から1つ選択してください。	
	①積極的に進めたい ②機会があれば進めたい ③どちらとも言えない ④あまり進めたくない ⑤進めたくない	
		←プルダウンから選択
	上記の理由を記入してください。	

(4) 良かった点や改善提案、今後の課題	
----------------------	--

4 コロナ禍での事業運営について

- (1) コロナ禍の中でも事業を中止せず実施したり、効果的なものとするために、工夫したことを以下に記入してください。

事業の準備段階	
事業の実施期間	

- (2) コロナ禍での事業運営として、上記(1)も含め今後に活かそうなことや、協働の相手方に望むことなどを教えてください。

事業の準備段階	
事業の実施期間	

5 その他 (協働の相手方に伝えたいことなどがあれば、自由に記入してください)

--